

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	平泉町活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
平泉町	034029	1	H26年度 ～H30年度	H26年度 ～H29年度
活性化計画の区域				
岩手県平泉町総面積 6,339ha-都市計画区域 1,200ha+建設予定区域 3ha=5,142ha				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
地域産物の販売額の増加	26.65%	26.75%	100.38	

(コメント)

諸般の事情により道の駅平泉のオープンが1年遅れたこと、また地域農産物を販売する拠点施設2つが廃止したことなどマイナス要因があったものの、整備した道の駅の立地が地域住民の使いやすい町の中心地に位置しているため、町内の中核となる販売施設として機能したこと、また国道4号沿いに面していること、さらには東北有数の観光地平泉の知名度もあり、集客につながったことから、当初の目標を達成することができた。

(記入例) 交流人口の増加の場合

目標値A = (目標値/現状値) × 100 - 100、実績値B = (実績値/現状値) × 100 - 100

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
受入機能強化施設	地域連携販売力強化施設、実施設計費、建築工事費、設備備品費、外構工事費			平泉町
農村漁村活性化施設整備附帯事業	研修費・調査費・印刷製本費			平泉町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
平泉町	H28.3.17	H29.3.29	H29.4.29	
事業の効果				
平泉町においては農協系統出荷のみが農業者の収入源となっていたが、本事業により産直施設が整備されたことで生産者が消費者の声を直接聞きながら農産物の販売を行うことが可能となった。 また、少量でも販売ができる等農業者の経営の幅が広くなり、これによって当町農業振興を進める上で大きな前進となり得る。				

3 総合評価

(コメント)

新たな販売施設を確保したことで、地域農産物の販売額が増加したほか、レストラン、トイレ等も備えていることから当町においては人とモノの拠点が新たに生じたことで地域活性化に大いにつながった。

今後も道の駅を町民と観光客との交流・連携のための拠点として、消費者ニーズを直接とらえながら、町内産農産物や加工品の供給体制の強化、6次産業化を推進することで特産品の開発を進めるなど、さらなる地域活性化につながるよう努めていく。

4 第三者の意見

(コメント)

地域農産物販売額の増加については、2か所の直売所等が廃止したものの、道の駅が開業したことで僅かではあるが目標を上回っている。

しかしながら、核となる道の駅の販売額が直近で目標の80%程にとどまったことは今後において大きな不安材料になると思われる。

このことから、その原因がどこにあるのか分析し、顧客ニーズや市場の動向を捉え、提供する商品・サービスの強みを活かした新たな仕組みも取り入れ、平泉町の農業が持続発展することを期待する。

平泉商工会 事務局長 加藤良大